

科目名 環境科学特論  
Title Advanced Study of Environmental Science  
科目区分 M 環境・人間・福祉を主とする研究領域

担当教員  
教授 飯島 明宏 ( イイジマ アキヒロ )

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
1・2		2	後期

## 目的

科学技術の進歩により、私たちは便利で快適な暮らしを手に入れた。しかし、それと引き換えに様々な化学物質が環境に放出され、私たちの健康を脅かす「リスク」となっていることもまた事実である。環境分野の政策主体には、リスクの所在を明らかにするだけでなく、問題の発生から影響に至るメカニズムを科学的に理解し、問題を解決に導くためのプロセスを政策的に組み立てるスキルが求められる。本講義では、大気、水、生態の各系を対象とした環境研究の最先端を学術論文の抄読を通じて読解する。これにより、現在起きている諸問題の実態を科学的に理解し、解決のための政策を模索する力を養うことを目的とする。

## 達成目標

環境問題の成因について、科学的に正しい判断および評価を自ら行うことができるような科学情報リテラシーを習得することを目指す。

## スケジュール

- 第1回 インタロダクション / 講義計画、評価方法等の説明、講義の導入
- 第2回 大気環境 ( 1 ) / 大気汚染防止法
- 第3回 大気環境 ( 2 ) / 大気圏での化学物質の動態
- 第4回 大気環境 ( 3 ) / 光化学オキシダントの高濃度化
- 第5回 大気環境 ( 4 ) / PM2.5の高濃度化
- 第6回 大気環境 ( 5 ) / リセプターモデルによる政策提言
- 第7回 水環境 ( 1 ) / 水質汚濁防止法
- 第8回 水環境 ( 2 ) / 水圏における化学物質の動態
- 第9回 水環境 ( 3 ) / BODの高濃度化
- 第10回 水環境 ( 4 ) / 窒素化合物の高濃度化
- 第11回 水環境 ( 5 ) / 原単位モデルによる政策提言
- 第12回 生態系 ( 1 ) / 生物多様性基本法
- 第13回 生態系 ( 2 ) / 生物多様性の現状
- 第14回 生態系 ( 3 ) / 多様性指数・類似度指数による生態系評価
- 第15回 講義のまとめ

## 教科書・参考文献

教科書 指定しない

参考書 「環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書」 環境省編  
各種学術論文 ( 英語 ) など

## 授業外での学習

講義資料として参照する学術論文 ( 英語を含む ) を事前によく読み込み、内容を把握して授業に臨むこと。また、学習の定着を図るために、ノートを作成すること。

## 評価方法

論文抄読への取り組みにより、総合的に評価する。( 100% )

## 履修上の注意

授業内に、抄読課題についてプレゼンテーションする機会を設ける。化学物質の循環に関するやや専門的な内容については、配布資料や映像資料を参照しながら十分な解説を加えるが、なるべく自主的に勉強し、理解できるように努めること。

科目名 教育行財政特論  
Title Advanced Study of Education Administration and Finance  
科目区分 M 環境・人間・福祉を主とする研究領域

担当教員 担当教員との連絡方法  
准教授 吉原 美那子 (ヨシハラ ミナコ)

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
1・2		2	前期

## 目的

教育行財政研究は、歴史を踏まえた理論的研究から現代の教育改革と結びつく実践性の高いもの、諸外国との比較など非常に幅広い。その中でも本授業では「地方教育行政改革」、「学校ガバナンス」、「教育の準市場化・民営化」に焦点を当て、理論研究から実践研究までを扱いながら論点を整理し、教育行財政研究と教育改革の問題を深めていく。そして、今日の教育における公共性を再考しグローバル化が進み社会が多様化する中で、教育における公共性のもつ意味が変容しつつあることを確認していく。  
授業は、講義と輪読、討論を交互に織り交ぜながら進めていく。

## 達成目標

- 教育と教育行政の基本原則を捉えた上で教育行政学の研究手法を学び、現代の教育制度や教育改革の動向を客観的かつ批判的に分析することができる。
- 自らの研究や関心に照らし合わせながら、今日の教育課題について考察することができる。

## スケジュール

- 第1回 ガイダンス:講義の進め方や評価方法の確認、教育時事について語る
- 第2回 教育行財政研究の基礎① 学習、教育、学校教育の基礎概念
- 第3回 教育行財政研究の基礎② 教育の公と私、教育権、教育の公共性
- 第4回 教育行政組織の基本原則と構造① 文部科学省と教育委員会
- 第5回 教育行政組織の基本原則と構造② 教育財政概説
- 第6回 教育行政組織の基本原則と構造③ 海外の教育行財政
- 第7回 教育政策の国際的動向① 国際機関のコンピテンシー研究
- 第8回 学校ガバナンス① 学校体系及び学校管理・運営の基礎
- 第9回 学校ガバナンス② 地方創生施策と学校
- 第10回 教育政策の国際的動向② 海外は日本の教育、学校をどうみているか
- 第11回 教育政策の国際的動向③ 新自由主義と教育
- 第12回 事例研究とディスカッション① (テーマは講義を進めて行く中で決定)
- 第13回 事例研究とディスカッション②
- 第14回 事例研究とディスカッション③
- 第15回 総括: レポートに向けてのディスカッション

## 教科書・参考文献

- 教科書 特定の教科書は指定しないが、講義で使用する文献等はポータルサイトから各自ダウンロードしプリントアウトしてくる。
- 参考書 必要に応じて紹介する。

## 授業外での学習

毎回読むべき文献を指定するので、授業前に必ず熟読しておくこと。また、事例研究では履修者によるプレゼンテーションによって進めるので、各自担当箇所を準備しておくこと。

## 評価方法

輪読のレジュメ (30%)、事例研究のプレゼンテーション (40%)、期末レポート (30%)

## 履修上の注意

授業は対話形式で行うため、積極的な発言を期待する。また、履修者の関心により、講義内容が前後することもあるので留意されたい。

科目名 社会福祉特論  
 Title Advanced Study of Social Welfare  
 科目区分 M 環境・人間・福祉を主とする研究領域

担当教員  
 非常勤講師 細井 雅生 (ホソイ マサオ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
1・2		2	前期

### 目的

「社会福祉の充実」は、およそすべての選挙公約にみられるが、福祉政策の充実は何を意味するか。特に、「福祉サービスが『必要だと感じている』ひと」としては、いま現在、とりたてて福祉サービスを『必要としていないと感じている』ひと」として。社会保障政策全体、特に、社会福祉政策の重要部分を形成するものである。本講義では、主に、公的扶助を含む社会福祉分野を中心として、「家族政策の社会学」の視点から、日本型福祉社会論にはじまる家族依存型福祉の現在を検討する。導入では、各社会福祉サービスの根拠法について、敗戦後の成立過程を考察し、社会福祉基礎構造改革の試みについて、「福祉サービスと契約」、「福祉サービスを『必要』と判断する過程」における専門能力と体制を中心に議論する。今年度は、里親、施設福祉、独居高齢者と地域包括サービスを取りあげたい。

### 達成目標

1) 社会福祉サービスという概念を的確に理解すること。2) 家族政策との関連で社会福祉政策の現在とあり方について深い理解をもつこと。3) 社会福祉サービスにおける専門性についての問題意識をもつこと。4) 権利主体という視点から、福祉サービス、政策の在り方を視点を身に着けること。5) 家族依存型福祉への問いを明確化すること。

### スケジュール

第1回	イントロダクション	受講生の関心の把握、講義計画の紹介
第2回	社会保障政策と社会福祉(1)	社会保障政策における社会福祉政策の位置づけを考える
第3回	社会保障政策と社会福祉(2)	高度成長期と老人福祉法、母子および寡婦福祉法の関係を考える
第4回	日本型福祉政策論(1)	家庭福祉、地域福祉をキーワードに日本型福祉社会の現在を考える
第5回	日本型福祉政策論(2)	福祉の対象ではなく、担い手としての家庭と地域
第6回	日本型福祉政策論(3)	公的扶助(生活保護)と家庭、自立支援援助技術の実際を考える
第7回	家族政策の社会学入門(1)	明治期以前、明治期、敗戦後家族政策のトピックス
第8回	家族政策の社会学入門(2)	保育政策から、子育て支援政策、子ども・子育て支援政策の解説
第9回	要養護児童政策の転換点に臨んで(1)	児童福祉法改正・児童養護施設の縮小と「家庭的」養護を考える
第10回	要養護児童政策の転換点に臨んで(2)	里親型援助(家庭養護)の可能性と課題
第11回	地域包括ケアの可能性と課題(1)	孤独死? 孤立死? 見守り戦略に向けて
第12回	受講者によるプレゼンテーションと議論	
第13回	受講者によるプレゼンテーションと議論	
第14回	日本型福祉社会政策再検討	
第15回	コメントと総括授業	

### 教科書・参考文献

教科書 特に指定しない

参考書 開講時にブックリストを提示

### 授業外での学習

授業時に提示した内容、次回授業の課題について基本事項を整理して臨むこと。

### 評価方法

プレゼンテーションだけでなく、授業ごとに実施する議論での発言等20%、レポート内容80%

### 履修上の注意

思いこみを排除し、的確に状況分析を行う姿勢のみ求める。

科目名 生涯学習特論  
Title Advanced Study of Lifelong Learning  
科目区分 M 環境・人間・福祉を主とする研究領域

担当教員  
教授 櫻井 常矢 ( サクライ ツネヤ )

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
1・2		2	後期

## 目的

本講では、現代社会における新たな地域生涯学習システムの構造と機能にアプローチする。まず日本及び諸外国における成人教育や生涯学習の理論研究に学びつつ、その現代社会における意義と課題について整理を行う。さらに新たな地域生涯学習システムの構築に向け、地方自治体、NPO、各種団体等による国内の具体的な地域づくりの諸実践を取り上げ、その可能性と課題について検討を行う。自治体・地域再編、青年の就労や団塊世代の社会参加、地域コミュニティ再生などの現代的課題からアプローチする。

## 達成目標

受講生各人の研究課題に照らしながら、①日本の生涯学習政策が有する現代的課題について理解を深めること  
②各地での具体的な実践事例への分析を通して地域生涯学習の構造と機能について自分なりの見解を得ることを到達目標とする。

## スケジュール

第1回	イントロダクション	: 講義概要・スケジュール
第2回	生涯学習の諸理論 ( 1 )	: 諸外国の「学習社会論」について
第3回	生涯学習の諸理論 ( 2 )	: 社会教育法制度解説
第4回	生涯学習の諸理論 ( 3 )	: 日本の生涯学習政策の成立過程と課題
第5回	規制緩和・地方分権と生涯学習 ( 1 )	: 民営化時代の成人の学習
第6回	規制緩和・地方分権と生涯学習 ( 2 )	: 自治体・地域再編と成人の学習
第7回	NPOが拓く生涯学習社会 ( 1 )	: NFEとしてのNPOの教育力
第8回	NPOが拓く生涯学習社会 ( 2 )	: 社会教育施設のNPO運営
第9回	青年の生き方とキャリアデザイン	: 青年の労働と生涯学習
第10回	地域人としてのキャリアデザイン	: 団塊世代の社会参加と生涯学習
第11回	地域づくりと中間支援組織の展開 ( 1 )	: NPO支援から地域コミュニティ支援へ
第12回	地域づくりと中間支援組織の展開 ( 2 )	: 英国RCC分析
第13回	地域づくりと中間支援組織の展開 ( 3 )	: 東日本大震災復興支援
第14回	協働のまちづくりと生涯学習	: パートナーシップ型社会と人材育成
第15回	まとめ	: これからの生涯学習社会を見据えて

## 教科書・参考文献

教科書 特になし。

参考書 適宜、必要な文献等を紹介する。

## 授業外での学習

次回の講義範囲に関連する内容について、講義内で指定(配布)した資料などを予習しておくほか、新聞やニュースなどからも積極的に情報収集すること。また、講義後は必ずノートや配布資料に目を通し学習内容の定着を図ること。

## 評価方法

受講状況並びに定期試験によって総合的に評価する。  
課題発表を含む受講状況(50%)・定期試験(50%)として考慮する。

## 履修上の注意

特になし。

科目名 障害者福祉特論  
Title Advanced Study of Welfare for the Disabilities  
科目区分 M 環境・人間・福祉を主とする研究領域

教授 熊澤 利和 (クマザワ トシカズ) 担当教員 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1・2 単位数 2 開講時期 後期

## 目的

我が国の障害者福祉施策に影響を与えた思想、障害者福祉施策の変遷、援助の過程を学習しながら、障害の形成と障害者の自立、生活支援の諸施策、支援の実際・実績を分析し、障害者福祉活動の担う課題、方向を考究する。

## 達成目標

- ① 地域政策学における障害者福祉の必要性について理解できる。
- ② 障害者の意思決定支援、自立、生活支援等の課題があげられる。
- ③ 障害保健福祉領域に対する政策、施策、支援における課題を考究することができる。

## スケジュール

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「障害」と「疾患」…健康の連続性について 障害の社会モデル 障害文化論
- 第3回 「障害」の意味を考える：国際障害分類から国際生活機能分類へ
- 第4回 障害者の意思決定と倫理について考える(1)
- 第5回 障害による差別の禁止と「自己決定」の原則
- 第6回 障害のあるアメリカ人法 (Americans with Disability Act: ADA) と「合理的配慮」
- 第7回 障害者に対する政策展開と制度改革…障害者基本法を中心に
- 第8回 障害者に対する政策展開…障害者総合支援法を中心に
- 第9回 障害者に対する政策課題…障害者の権利に関する条約からみるわが国の成年後見制度の課題を中心に
- 第10回 障害者の意思決定と倫理について考える(2)
- 第11回 合理的配慮と公共性
- 第12回 “shared-decision-making”とナラティブアプローチ(1)
- 第13回 “culture-relevant”と共生
- 第14回 “shared-decision-making”とナラティブアプローチ(2)
- 第15回 まとめ

## 教科書・参考文献

教科書 使用教材は、受講者と適宜話し合ってから決める。

参考書 小澤 温 『よくわかる障害者福祉』 第7版 ミネルヴァ書房 2020

## 授業外での学習

講義時に、文献、事前学習の内容を提示するので、予習をして講義に望むこと。また事後学習に対しては、毎回の講義時にテーマを提示するので、それについて学習をすること。

## 評価方法

【期末試験】：レポート評価70% 【平常点】：毎回のコメントシート（小テスト）30% 計100%  
レポート評価の視点：講義内容の理解の反映性、分析力、表現力、参考文献・資料の活用など  
レポートの提出は、15回目

## 履修上の注意

障害者福祉の制度、活動内容（社会福祉関係法の規定による）を理解したうえで講義に臨んでほしい。  
開講時に参考文献を紹介するので通読すること。  
毎回の授業毎に受講生の報告と議論を重ねるため事前準備を要する。

科目名 スポーツ科学特論  
Title Advanced Study of Sports Science  
科目区分 M 環境・人間・福祉を主とする研究領域

教授 高橋 伸次 ( タカハシ シンジ )

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次  
1・2

単位区分

単位数  
2

開講時期  
後期

## 目的

本講では、スポーツを生涯学習へと動機づける立場、およびスポーツ活動を文化的な実践と捉える立場から、人間にとってスポーツとは何か、健康であるということやからだを動かすということの科学的意味を考える。それを前提として、現代スポーツの意味や社会的機能、またそこに見られる課題や展望を考究し、現代社会においてスポーツを振興することの政策的視点や意識を涵養することを目的とする。

## 達成目標

さまざまなスポーツ現象の中から問題を抽出することができ、その様相を分析・解説することができ、さらにそれを解決させるための考えをもてるようになることが、受講生に期待する到達目標である。

## スケジュール

第1回	ガイダンス	講義概要、スケジュール、評価方法等
第2回	スポーツと人間	人間性の表現としてのスポーツ、スポーツの基本的意味
第3回	スポーツと健康	からだの健康、こころの健康
第4回	スポーツと教育	生涯学習としてのスポーツ、スポーツ指導者・ボランティア
第5回	スポーツと現代社会①	スポーツの現代的意味、スポーツの大衆化・高度化・多様化
第6回	スポーツと現代社会②	スポーツの政治的影響、スポーツの経済的効果
第7回	スポーツと現代社会③	スポーツ行政と政策、スポーツ振興と地域活性化
第8回	現代スポーツの諸問題	スポーツメディア、スポーツビジネス、地域スポーツの振興
第9回	現代スポーツへの接近①	個人テーマによるレポート報告①
第10回	現代スポーツへの接近②	個人テーマによるレポート報告②
第11回	現代スポーツへの接近③	個人テーマによるレポート報告③
第12回	現代スポーツへの接近④	個人テーマによるレポート報告④
第13回	現代スポーツへの接近⑤	個人テーマによるレポート報告⑤
第14回	現代スポーツへの接近⑥	個人テーマによるレポート報告⑥
第15回	まとめ スポーツのこれから	

## 教科書・参考文献

教科書 受講生数等に応じて適宜指示する。

参考書 受講生数等に応じて適宜指示する。

## 授業外での学習

文献、新聞、雑誌等からのスポーツ資料収集および分析。

## 評価方法

平常点(100%)。

## 履修上の注意

自らもスポーツ活動の経験があり、スポーツに強い関心があることが望ましい。

科目名 地域コミュニティ特論  
Title Advanced Study of Regional Community  
科目区分 M 環境・人間・福祉を主とする研究領域

教授 佐藤 彰彦 ( サトウ アキヒコ )  
担当教員 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1・2 単位区分 単位数 2 開講時期 前期

## 目的

本講義では、「地域コミュニティ」を、森岡清志が主張する「期待概念としてのコミュニティ」（ここでは、住民自治や住民生活の質向上が重要視される）してとらえる。その上で、そこに作用する権力、政策、住民運動などにかんする理論等について学び、これからの「地域コミュニティ」について、受講者とともに考える。

## 達成目標

地域社会における人々の生活のありようやそこに生起している問題を、さまざまな外部からの作用、あるいは、外部との相互作用から説明することができる。また、そうした知識・能力を駆使し、地域社会の諸問題解決の処方箋を思考することができる。

## スケジュール

第1回 インTRODクッション  
—講義の進め方、役割分担、輪読書の選定、各自の研究分野・テーマ報告

※以下、第2回～15回のテーマと振り分けは、初回の講義をふまえて変動の可能性あり

第2回 輪読とディスカッション（1）  
～4回 —テーマ：我が国における市民社会 / 住民組織

第5回 輪読とディスカッション（2）  
～7回 —テーマ：社会運動 / 住民運動

第8回 輪読とディスカッション（3）  
～10回 —テーマ：地域における権力構造

第11回 輪読とディスカッション（3）  
～15回 —テーマ：政策にみる「地域」 / 「コミュニティ」

## 教科書・参考文献

教科書 第1回の講義で選定するほか、近年の学術論文なども必要に応じて用意する。  
参考文献 輪読書の関連文献など積極的に入手・購読すること。  
参考書 輪読書の関連文献など、積極的に学習すること。

## 授業外での学習

次回の授業範囲に関連する内容にかんし、輪読書に限定することなく幅広く予習してくる。主体的な情報収集・学習に努め、かつ、その成果をもちいて積極的に授業内の討論に役立てること。

## 評価方法

①講義への受講状況・貢献度（20%）、②レポート（期末ならびに小レポート）（80%）を総合的に判断して評価する。

## 履修上の注意

【重要】外国文献ならびに海外論文も扱うため、英語の専門書を読解できるだけの語学（英語）能力を有していること。